

エコプロダクツ 2012

環境カウンセラー全国連合会 (N-43)

1. 福島で“竹”に取り組む

佐久間 光好

☆ はじめに

竹は日本古来のものではないが、「竹取物語」や「舌切雀」などで親しまれ、筍は食文化を伝える。家の前に田んぼ、背後に竹林を控えた里地、里山では、竹で籠を編み、農耕資材、建材とし、最大限利用してきた。

現在各地で、樹林地への侵入が問題になっている。私たちは、これまで、県内で「竹」を素材に何ができるか、竹との共生というテーマを掲げ、多くの人たちに語りかけてきた。環境学習としての「竹」ブースには毎回 200 人もが訪れる。参加者は未就学児からその曾祖父母の世代まで、幅広い。

2011 年 4 月、福島県いわき市から北の沿岸部の津波被害状況を見て回った。竹の生育地では、塩害はあるものの根方は維持され、被害は小さかった。地下茎をのばす竹の特性と認識した。



南相馬市



相馬市

☆ 震災後の取り組み

南相馬から郡山に避難していた若い女性が、子どもを連れて訪ねてきた。その子は、置いてあった「竹トンボ」を手にとって遊び始めた。

家族がバラバラになる。知らない町に移り住む。声大きいと叱られる。窓を開けられない。十分に外遊び出来ない。・・・我慢が強いられ、ストレスがたまる毎日だったであろう。

「竹トンボ」で無心に遊ぶこどもの楽しそうな様子を見て、これだと思った。

☆ 避難所で

こどもたちは非常に疲弊していて、当初どう向き合えばいいのか、わからなかった。当協会会長（長澤利枝）はじめ、保育士さんやメンタルケア体験者や専門家など、多数の女性たちの応援を得、福島環境カウンセラー協会の活動として避難所訪問を実施した。

竹トンボは、羽根部分に工夫を凝らし、こだわってハート型になるよう削った。さらに彩色を施し「幸せの黄色いトンボ」と名付けた。竹細工は時間を忘れる空間を、こどもたちにもたらした。各地から寄せられたメッセージに、返事を書く例が出始め、こどもたちが落ち着いてきたことを実感した。

竹トンボのほか竹ピースもある。ストラップに使ってもらえたらと思う。



竹トンボと竹ピース



2. 南相馬市からのメッセージ

長澤 利枝

南相馬市では“がれき”を分別しています。写真は2012年4月15日のもの。
8か月たった今も、何も変わっていません。

災害廃棄物量 890,000 トン 内処理対象量 630,000 トン 仮置き場搬入量 502,766 トン

- 一次仮置き場 5か所 面積 14,5ha
- 二次仮置き場 3か所 面積 28,4ha 中間処理(粗分別)場所



電柱は仮設、海側に旧送電線鉄塔が並ぶ。倒壊した鉄塔は撤去され、送電線は撤収された。



消防車、宅配便の車両もみえる廃車の集積域。他の区画より広い。



道路より右手はがれき置き場、その外側は海、左手はかつては水田。

分別のコンベアー



徹底分別 金属片



コンクリート片

平成 23 年 3 月 11 日 「東日本大震災」から 1 年 9 か月になります。

- ☆ 警戒区域解除地域は、あの日以来手つかずのままです。
- ☆ 原発事故は、津波の被害に追い打ちをかけました。
- ☆ 美しい自然、心豊かな生活を無残に破壊してしまいました。

♪ 長い歴史に育かれた浜通りの文化は、これから

続く長い再生の道のりで、復活しなくてはなりません♪

必ず福島に戻って、役に立つ人になりたい！...というこどもたちがいるから。



“希望” 屋敷跡に掲げられた鯉のぼり

環境カウンセラー全国連合会

〒167-0051 東京都杉並区荻窪 5-15-7 白鳳ビル 202 号 Tel&Fax 03-3392-0325

NPO 福島環境カウンセラー協会 会長 長澤 利枝

連絡先: toshie.nagasawa@gmail.com

冊子原案: 佐久間 光好・長澤 利枝

作成協力: 上領 園子 (埼玉) 倉田 智子 (千葉) 2012.12.12